

第6回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

1. 日時

平成28年3月23日（水）19：00～20：30

2. 場所

胎内市役所 5階501会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、坂上タキ江委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

【事務局】

総合政策課長、総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

4. 議事内容

事務局より資料に沿って説明を行った後、市民ワークショップの開催状況、総合計画の構成及び将来像とまちづくりの方向性について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

- 市民ワークショップの役割は、これまでの方向性に対して市民がどう思ったのかを確認するものなのか、あるいはそれと少し異なり最終的に計画のどこかに繋がっていくものなのか。最終的にどこに着地するのか。
- 財政が大きく縮小する中で、施策の重複という状況は極力抑えていかなければならないと思う。例えば新潟市では地域魅力創造部が横串になって施策の調整を行っているが、組織なのか何かは分からないが、この総合計画の中で事業を調整し、場合によっては縮小していくようなシステムを位置付けることはできないだろうか。
- 現在の地方再生の流れでは、国からの支援を受けるためには地域から発信しなければいけないという点がポイントとなる。今までとやり方を変えていく攻めの部分、これをこの審議会の中で整理していきたい。ただ攻めと言っても無理矢理新しいことをする訳ではなく、例えば“今まで地域の中だけでやっていたことを外部の力を借りたらより良くなるんじゃないか”といったことを現場から声をあげていただきたいと思っている。新しいことというのは“やってみなきゃ分からない”という部分もある訳だが、それが今回の基本方針の“果敢に挑戦し…”という部分に込められている。それが10年前と根本的に違う部分だと思う。
- アンケートの中で、若い人は“暮らしやすいまち”だと思う人は多い反面、“これからも住み続けたい”という人の割合が大きく下がっていた。住んでいるうち、そこから出られないうちは当たり前だと思っているが、外に出られるようになる途端に離れたくなるということなので、胎内市に住む魅力をもっと感じられるようにしていかなければいけないと思う。そのためには、郷土愛を育む教育といった部分をもっと特色あるものにしていかなければいけないと感じている。
- ワークショップの話聞いていて感じたのだが、胎内市ではキャリア教育が国に表彰されるなど全国的にもすごいことをやっているのにそれを保護者が知らないことが多い。ずっと続けているので

当たり前なことだと思われているという状況があるので、“他の市町村に比べてこれだけ優れたことやっているんだ”ということを発信するのも重要だと思う。

- 住んでいる人にとっては“灯台下暗し”なので、教育や情報発信というのは重要なポイントだと思う。例えば“〇〇小学校が〇〇コンテストで1位を取りました”という情報があった場合、市のHPや新聞にちょっと取り上げられただけでは日々の多くの出来事の1つとして流れていってしまう。しかし、外部との交流の中でこうした情報が示されると印象に残るということがあり、新たに何かを作らなくても今あるものをうまく繋げたりアレンジすることですごくアピールできる。そういうことを戦略的に進めて行ければ良いと思う。
- 今回、基本理念の下に基本方針が3つあって、1番が“自然と文化に囲まれた心安らぐ故郷を守る”。特に3番の“まちの内外に胎内の魅力を発信する”は今の話に通じる良い内容だなと感じたところである。一方、残る2番の“果敢に挑戦し、力強い未来を創造する”については、これを否定するつもりはないのだが、胎内を大きく発信しようと思うと“何かを作る”とか“何か大きな施設を建てる”といった方向に意見が集中しやすいので配慮が必要だと感じている。例えば、“今までやってきたことや今あるものをさらに手を加える、変えていく”“今までの否定するわけではなく、さらに良く改善していきたいんだ”というアピールがあると良い。
- 外の力をどう利用して、今までやってきたことを違って見せるのかというマッチングが重要だと思う。そうすると胎内のブランドも変わってくる。もともと良いものが沢山あるので、中だけで閉じるのではなく外から来た人が代わりに発信してくれるというのが理想である。
- 農業分野は今とても厳しい状況ではあるが、よそから人が来た時には、お洒落なものを出すよりも農家らしい素朴なもの、昔からあるおいしいものを出せば良いと思っている。
- 今のツーリストは嘘くさいものを嫌がるので、無理矢理きれいにしたおもてなしよりも今のご発言のような取組が重要だと思う。もう1つ重要なのは“できてるものを買うのではなく一緒に作る”ということ。それが体験・交流となる。例えば、農業だけで閉じてしまうと時代にあっていないと感じてしまうようなものも、そこに観光が加わると新鮮な体験になることがある。そういうことをやっていくと本当に変わってくるし、そんなにお金もかからない。格好いい拠点をつくる必要は全くないと思う。
- 全方位的に考えなければいけない行政からは出てこない内容として、この会議では重点戦略を中心に議論できればと考えている。各組織の代表として現場を知っている審議会委員の皆さんから“これを1番やりたい”“これをやれば多くの人たちがついていきやすい”という声をあげて欲しいというのが私の思いである。
- 地方創生には、行き詰ってるところに対して社会実験という形で“一時的にやってみたらどうなるか”を規制緩和や予算をもらって実験するという側面がある。そういうことができないか。きっとそういうメニューを沢山用意することが重点戦略のポイントになると考えている。
- ドラマにもなったナポレオンの村では、役人が強烈なリーダーシップで結果を出して、大反対していた地域の人を納得させてしまった。当事者が利害関係を調整するのは難しいので、外部の力をうまく利用するというのがこの場合のポイントだと思う。総合戦略に掲げたインキュベーションシティの狙いもそういう所にある。そしてもう1つ重要なのは、必ずしも全体で取り組まなくても良いということ。理解がありそうな人達でとりあえずやってみて、もし結果が出たら他の人達はそれをどう見るのかということ。みな喧嘩をしたい訳ではなくより良くしたいと思っているのだから。